テクノロジーの居場所

まちテラス

活動レポート２０２５

Chapter 1

なぜ、まぜテクネは生まれたのか



一般社団法人あわらテクノロジー協議会
代表理事　齋藤恭子

生きづらさや不完全さを愛せる人間になってほしい。
この想いが、私がテクノロジー教育に関わるようになった原点です。

私はもともと、発達障害を専門とする小児科クリニックが運営する放課後等デイサービスで、
ICT を用いた療育に携わっていました。
そこで、自己肯定感の低さや過去のトラウマから、何事にも無気力だった一人の少年と出会いました。

彼はテクノロジーに触れる中で、少しずつ「好き」や「もっとやりたい」という感情を取り戻していきました。
試行錯誤を重ねるうちに自分なりの目標を見つけ、やがて将来に向かって歩き出していく――
その変化を、私は間近で目の当たりにしました。

デジタルツールを用いれば、人は自分なりのやり方やペースで自分を表現することができます。
言葉でのやり取りが苦手でも、手を動かすことで集中して表現できる。失敗しても、何度でもやり直せる。
その環境の中で人は、少しずつ自分の特性を「欠点」ではなく「個性」として受け止められるようになっていくのだと思います。

私はこの経験を通して、大袈裟ではなく、テクノロジーは人を生かすものだと確信するようになりました。

一方、テクノロジーが社会に不可欠な存在となった現在においても、
安心してそれらに触れ、自由に試し、失敗を次のステップへと変えられる場は決して多くありません。
地域や家庭環境による体験格差は依然として大きく、学校や習い事といった既存の枠組みの中では、
その人に合った関わり方が見つからないケースも少なくないのが現状です。

だからこそ、まぜテクネは、成果や効率を求める前に、生きづらさや不完全さを抱えた自分を肯定し、
いつかそれを愛せる居場所であることを大切にしています。

そしてもう一つ、まぜテクネが大事にしている理念に「混ざり合い」があります。
年齢、得意・不得意、経験、立場。
それらを分けて整えるのではなく、同じ空間で「混ざり合う」ようにすること。

誰かが教える側に固定されるのでも、学ぶ側に押し込められるのでもなく、それぞれが揺れ動きながら関わる。
普段の生活では出会わない、多様な人たちとの出会い。
その中で人は自分を理解し肯定し、そのことが他者を理解し肯定することにつながっていくのだと思います。
まぜテクネは、属性や価値観が分断を起こすものではなく、それらがやさしく混ざり合う社会を目指しています。

テクノロジーを使った「創造力」。
あらゆる価値観を肯定し、混ざり合う「想像力」。

これら二つの「そうぞう力」を持つ人が生まれ繋がり合う社会を、わたしは心から願っています。

Chapter 2

想いを、どのように居場所として「形」にしているのか

テクノロジーの居場所「まぜテクネ」は、
福井県あわら市の田園風景の中に佇む休校中の小学校「新郷小学校」の旧職員室・旧校長室で運営しています。

学校でも、家庭でも、塾や教室でもない。豊かな自然と広い空に包まれた静寂の中、
「ただここにいて、テクノロジーがそばにあって、自由に何かを試していい場所」として、この空間はひらかれています。



対象

主に10代の子ども・若者

開催日

月曜：15 時 〜 18 時
水曜：13 時 〜 18 時
土曜：10 時 〜 17 時

利用形態・料金

自由来館／無償

場所

福井県あわら市中浜 1-1
（新郷小学校旧職員室・旧校長室）

運営

一般社団法人
あわらテクノロジー協議会

まぜテクネには、あらかじめ決められたカリキュラムはありません。
「今日は何をしてみたい？」から始まる居場所です。

何をするか、どこから始めるか、どこに座るか、誰と関わるか。
その選択を、できる限り本人に委ねています。

黙々と一人で作業する日もあれば、誰かの画面をきっかけに会話が生まれる日もあります。
多様性や多面性そのものが、この居場所の日常です。



ＰＣ作業・ゲーム制作

ゲームや Web、デザイン制作など、興味に応じて自由に挑戦できます。



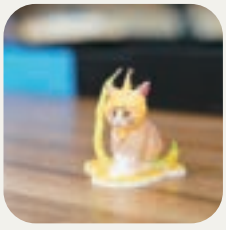
iPad・デジタルイラスト

描くこと、つくることを通して、自分の世界観を形にします。



音楽・映像制作

音楽をつくる、映像を編集するなど、表現の幅を広げる体験ができます。



３Ｄプリンター

考え設計したものを、実際の「かたち」にすることができます。

まぜテクネでは、年齢や経験によって役割を固定しません。
昨日まで教えてもらう側だった子が、今日は自然と誰かに教えていることもあります。

大人も「指導者」として立つのではなく、同じ空間で、同じように悩み、試す存在として関わります。

その中で子どもたちは、誰かと比べられることなく、自分が自分として肯定されること、
得意なことや好きなことを活かして表現すること、
そして、自分とは違う誰かの表現や、その人自身の個性を素晴らしいものとして受け取っていきます。

何かをつくる過程の中で自分を表現し、肯定していくこと。そこから、自己理解と他者理解へとつなげていくこと。
それらを、まぜテクネは大切にしています。

Chapter 3

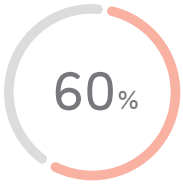
この居場所から、
どのような「変化」が生まれているか



延べ利用者数
1,600 人以上
（2025年末時点）

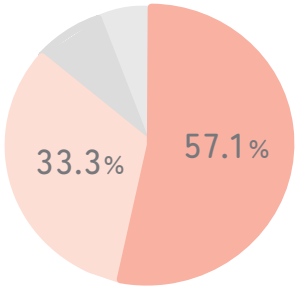


不登校や発達特性を持つ
子どもたちの割合

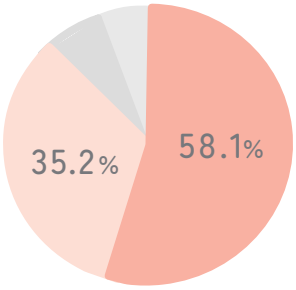


利用者の女子割合

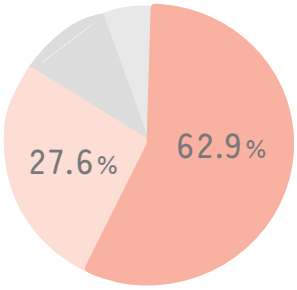
まぜテクネは、2024 年 2 月のプレオープン以降、多くの 10 代にとっての「居場所」として機能してきました。また、まぜテクネに通う 10 代を対象としたアンケート結果からは、「新しいチャレンジをした」「失敗しても大丈夫だと思える」「この場所で、好きなことややってみたいことが見つかった」といった項目において、90%以上が肯定的な回答をしています。



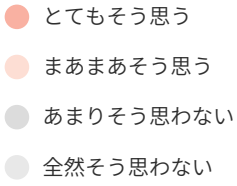
新しいチャレンジをした



ここでは失敗しても
大丈夫だと思える



この場所で自分の好きなことや、
やってみたいことが見つかった



Chapter 4

まぜテクネが目指す、
その先の景色

社会とゆるやかにつながる入口

まぜテクネは、10 代にとっての居場所であると同時に、社会とゆるやかにつながる入口でもありたいと考えています。

日々の創作活動は、単なる「練習」や「学習」で終わるものではありません。イベントへの出展、作品の発表、外部の大人との交流などを通して、自分の表現が社会と接続する経験を重ねることを大切にしています。こうした体験は、誰かに評価されるためだけではなく、「自分の表現が誰かに届く」という実感、そして将来の選択肢の広がりや自己実現に繋がるものだと確信しています。

テクノロジー・創作を仕事として届ける

まぜテクネでは、テクノロジーや創作を仕事にしている大人や企業との連携を、段階的・選択的に進めています。その一例が、福井県坂井市の印刷会社 エクシート と連携した「ノベルティのトータルプロデュース事業」です。

この取り組みでは、

- 企業とのコミュニケーション・要件整理：**エクシート**
- デザイン・イラストなどの制作：**まぜテクネのクリエイター**
- 印刷・加工・ノベルティ化・納品：**エクシート**

という役割分担のもと、子どもたちや若者の創作が、実際の仕事として社会に届けられる仕組みを実装しています。

対象は、高校生以上の希望する参加者に限定し、学業や家庭の状況、本人の意思を尊重した上で関わる形を取っています。また、すべての子どもが働くことを前提とするものではなく、「やってみたい」「関わってみたい」と思ったタイミングで、自ら選択できる機会として設計しています。

この取り組みを通して、自分の「好き」や「得意」が、誰かの役に立ち、価値として社会に届く実感を得ることを大切にしています。

数字だけでは測れない変化も、数多く生まれています。

これらは特別な成功例ではなく、まぜテクネの日常の中で、繰り返し起きている変化です。

不登校だった子がまぜテクネでVtuber制作やイラスト制作に出会い、週 1〜2 回、学校へ足を運べるようになった

感覚過敏があり学校では安心して過ごせなかった子が、「ここなら大丈夫」と感じ、自然に輪の中で過ごせるようになった

「自分の頭で考えること」を諦めてしまう傾向にあった子が、3D モデリングなどの創作活動に出会い、自ら考える一歩を踏み出せるようになった

まぜテクネでは、テクノロジーを使った創作活動が、その場限りの体験で終わらないことを大切にしています。
好きな分野を通して語り合える仲間を見つけること。得意なことを、将来の選択肢につなげていくこと。作品を地域イベントや発表の場でお披露目し、社会と関わること。そうした経験を通して、創作が「自己表現」で終わらず、「社会との接点」になることを目指しています。実際に、

- **夢が明確になり、デザイン科の高校へ進学した子**
- **大人たちのプログラマーコミュニティに顔を出すようになった子**
- **3D モデリング作品の実用新案申請に向けて挑戦している子**

など、創作を通じて自己肯定感と社会性を同時に育てている事例も多く生まれています。

まぜテクネ

大学との連携で探究する「暗黙知」

まぜテクネの価値は、設備やプログラムそのものだけではありません。

子どもとの距離感、教えすぎない関わり方、不完全さを受け止める空気、そして混ざり合いを生む場の設計。こうした要素は、マニュアル化しづらい現場に蓄積された「暗黙知」です（暗黙知とはルールとして明示されているものではなく、人と人との関係性や振る舞いの中で自然と共有され、まだ言語化されていない知識を指します）。

現在、大学と連携し、こうした関わり方や空間設計が子どもや若者に与える影響を研究・検証し、暗黙知を少しずつ言語化・共有する取り組みを進めています。これは、創造が生まれ続ける場を持続的につくるための基盤づくりでもあります。

まぜテクネの知と創造を全国へ

少子化、地域格差、不登校や孤立。そして時に、創造性が受け止められにくいこともある社会構造。これらは、地域に限った課題ではありません。

まぜテクネは、単に完成形を全国に広げることを目指しているのではなく、各地の文脈に応じて応用できる「考え方」や「実践知」をひらいていくことで、より大きな全国的なインパクトを生み出したいと考えています。

企業・大学・自治体と連携しながら、現場発の知と創造を社会へ循環させていく。それが、まぜテクネが描く次の広がりです。

Message

ともにつくり、ともに育てる

まぜテクネは、一つの地域に閉じた取り組みではありません。
居場所づくりの中で培われた創造性や実践知を、企業・大学・自治体と連携しながら、
創造が生まれ続ける未来へとつなげていくことを目指しています。

地域から、全国へ。
一つの完成形を広げるのではなく、
各地の文脈に応じて応用される「実践知」と「創造力」をひらいていく。

それが、まぜテクネの描く未来です。

企業の方へ

協賛・寄付、創作や教育分野での連携、
全国展開を見据えたパートナーシップ

大学・研究機関の方へ

暗黙知の言語化・実践研究への参画、
フィールドとしての連携

行政・地域の方へ

子ども・若者支援の拠点連携、
他地域展開に向けた対話と協働

個人の方へ

寄付、見学・視察、継続的な応援

テクノロジーが、人が自分を肯定し、
社会と混ざり合っていくためのものでありますように。

Contact

一般社団法人あわらテクノロジー協議会
テクノロジーの居場所「まぜテクネ」
mail maz.a.techne@gmail.com
Web https://maz-a-techne.com/

Website

Instagram

15日（日） イベント

親子で参加！
ドローンでお菓子つり



テクノロジーを通して 子どもたちが社会と繋がる場を

10～18歳を主な対象にデジタルクリエイティブな活動ができる施設「まぜテクネ」が、2024年3月オープンしました。イラストレーターやフォトショップ等のソフトを活用して自由に創作ができるほか、配信スペースや3Dモデリング等の設備も備えています。

まぜテクネを運営する一般社団法人あわらテクノロジー協議会　代表理事の齋藤恭子（さいとうきょうこ）氏にお話を伺いました。


代表理事　齋藤 恭子 氏

いまの子どもたちが参加しやすい施設に

休校中のあわら市新郷小学校の校舎の一室を利用してオープンした同施設は、元来、齋藤氏がプログラミング教室をしていた場所でした。知り合いから休眠預金活用事業を進められたことがきっかけで、現在の事業を開始しました。

計画段階では具体的な体験内容が決まっておらず、「いまの子どもたちが興味を持つコンテンツを用意する点が特に苦労した」と齋藤氏は振り返ります。

知り合いの中高生へのヒアリングや運営スタッフからのアイデアを取り入れていき、現在はキャラクターデザイン、グッズの作成やVtuber配信ができる環境など様々なテクノロジー機器を使用できる、クリエイティブ活動を行う空間となっています。タブレットやノートパソコンの使用はもちろん、イラストレーターやフォトショップ等有料のソフトも無料で使用できる点は大きな魅力で、クリエイティブを通して、子どもたちの自己表現の場としても活用されています。あわら市在住の方に限らず利用ができ、現在利用している6割が女子と、男女問わず参加しやすい居場所。予約は不要で土曜日にふらっと見学に来られる方もいるようです。

子どもの未来へ可能性と交流を広げる場にしたい

人や地域、社会を「まぜまぜ」したいという想いとテクノロジーの語源であるアテネ語「テクネ」を掛け合わせた名称の「まぜテクネ」には、小学生～高校生の学年を超えての交わり、スタッフの大人や親との交わりの場にしてほしいという思いが込められています。「性別や学年、学校に通っているか否か、障害等を含めた特性などによらず、テクノロジーを皮切りにまざり合う場になれば」と齋藤氏。また当施設は子ども本人の主体性を特に重要視しており、既定のカリキュラムは存在せず、子どもが興味を示したテクノロジーから学び始めてもらう仕組となっています。教えるのではなく、動画で検索したり本を読んだりと自身で調べて学び、興味を追及できる場です。

今後について「社内でのデザインや3Dモデリング等は実際に企業でも必要とされているため、将来まぜテクネ内の子どもとスタッフの交流に留まらず、県内企業と子どもたちが繋がる場にしたい」と齋藤氏は意気込みます。

また、個人の活動として、「私はコアットというプログラミング教室も運営していて、昨年、産業情報センターで子ども向けのドローン体験を実施しました。参加した子どもたちからも楽しかったとの声を聴いています。今年も企画していて親子で参加でき、楽しくデジタルに触れるイベントにしたいです」と笑顔で語ってくれました。

DATA

一般社団法人あわらテクノロジー協議会



所在地
あわら市中浜1－1
代表者
代表理事 齋藤 恭子
事業内容
まぜテクネの運営
まぜテクネ開館日
月曜日 15:00～20:30
水曜日 13:00～20:30
土曜日 10:00～17:00
メール
maz.a.techne@gmail.com
URL
https://www.instagram.com/maz.a.techne/

同社HPはコチラ！

（第3種郵便物認可）　日刊　県

テクノロジー触れる場 平等に

あわら・新郷小に施設

10~18歳、機材使い創作

デジタル機材を使って自由に創作活動ができる10~18歳向けの施設「まぜテクネ」が、あわら市内に誕生した。運営する斎藤恭子さん(29)＝鯖江市＝は子どもの生活環境や障害の有無にかかわらず、創作する楽しさを知ってほしいと願っている。（坂本碧）

施設は休校中のあわら市新郷小学校の一室で月、水、土曜日に開かれる。斎藤さんが代表理事を務める一般社団法人あわらテクノロジー協議会が開設。横浜市のNPO法人が募集する休眠預金事業の採択を受けて、約3千万円の補助金で機材購入や人件費を賄う。

機材は数台ずつのパソコンとタブレット端末のほか、3Dプリンターや電子ピアノなど。機材に詳しい職員が常駐する。利用者は好きな時間に訪れ、分からないことは教わりながら、イラストやキャラクターのグッズ、ボーカロイドなどを作ることができる。

まぜテクネに週1回通う福井市の女子小学生(11)は、自らの動きに連動して画面上で動く「Vチューバー」を制作する。パソコンは施設に来るまで触ったことがなかったという。「横向きの顔やまばたきの動きをうまく作れたときが一番うれしい」。父親(51)は娘の成長に驚き「ソフトの基本的な使い方から教えてもらえるのでありがたい」とほほ笑む。

斎藤さんはプログラミング教室も運営する。パソコンや動画投稿サイトが子どもの身近にある中「テクノロジー（科学技術）を受容するだけじゃなく作る側に回り、テクノロジーで何かを作ることを楽しいと思ってほしい」と狙いを話す。

施設名は「まぜまぜ」と「テクノロジー」を掛け合わせた。2月にプレオープン、3月末に本格始動させた。家にパソコンがあるかないか、学校に通っているかどうか、障害があるかないか、どこに住んでいるか。斎藤さんはそうした条件によって、子どもたちがテクノロジーに触れる機会は均等でないと考える。

「いろいろな年齢や属性の子に来てほしい。互いに共存できる雰囲気をつくっていきたい」と話す。

利用は無料で、対象は小学5年生から18歳まで。月曜は午後3~8時半、水曜は午後1~8時半、土曜は午前10時~午後5時に開館する。問まぜテクネ＝mazeteche.a.techne@gmail.com



必要に応じてサポートする斎藤さん（中央）や職員＝あわら市新郷小学校内のまぜテクネで

テクノロジーを活用し、さまざまな創作活動が体験できる「まぜテクネ」＝27日、あわら市新郷小



先端技術で創作自由に

まぜテクネ あす、あわらに本格オープン

VR、3Dプリンター設置

10代の〝居場所〟へ

小中高生ら若い世代が、VR（仮想現実）技術や3Dプリンターといったテクノロジーを活用、無料で自由に創作活動ができる場、まぜテクネ」が30日、休校中のあわら市新郷小に開設される。運営する一般社団法人あわらテクノロジー協議会は2月にプレオープン。10代の利用者がタブレットでイラストを描いたり、3Dプリンターで造形物を作ったり創作を楽しんでいる。

（中村俊介）

協議会は地域や性別、家庭環境などに関係なく、誰もがテクノロジーに触れられる〝開場所〟を作ろうと昨年8月発足。同校でプログラミング教室などを開く齋藤裕さん(29)＝鯖江市＝が代表理事を務め、あわら市や同校の利活用法を検討する「新郷小学校を考える会」と連携し、開設に至った。活動経費は、企業機関口座の「休眠預金」でNPO法人やボランティア団体の活動を助成する制度を活用した。

施設名の「まぜテクネ」には「地域とテクノロジーを混ぜ合わせた場所」との意味を込めた。同校1階の職員室と校長室だった場所にパソコンやタブレット、VRゴーグル、3Dプリンターなどを用意した。

プレオープンでは週1回、土曜日に7時間開放。小学高学年から中学生を中心に延べ80人が、歌声合成技術「ボーカロイド」を使った音楽制作、3Dプリンターによるフィギュア作りに取り組んだ。1人でも複数でも自由に利用でき、齋藤さんらスタッフが5人が活動を支援している。

「テクノロジーと言っても、プログラミングやVチューバー（バーチャルユーチューバー）作成など、たくさんの分野がある」と齋藤さん。「少しでもテクノロジーに興味ある人に足を運んでもらいたい。そこで自分の得意な分野を見つけて、将来に役立てば」と話している。

30日、オープニングセレモニー終了後の午前10時半から利用できる。4月6日以降は毎週土曜午前10時～午後5時、4月後半からは月曜と木曜日も午後から利用できる予定。

セントピアあわら 午後11時まで営業

5日から

あわら市は4月5日から、温泉施設「セントピアあわら」の営業時間が午前10時から午後11時までになると発表した。休館日は毎月第3火曜日。指定管理者の変更による移行期間とし

…運動」を通し大野市民と深い関わりを持った世界的な画家、髙畠さんに焦点を当てたトークイベント「AIと大野」が30日、同市のCOCONOアートプレイスで開かれる。事前予約が必要で、先着30人まで。

かつて大野では、無名若手作

あす 大野でトーク催し 30人聴講募る

んが、対話形式で髙畠さんと大野のこれまでの関わりなどを紹介する。

聴講料が必要で、大人300円、中学生以下無料。申し込みはCOCONOアートプレイス＝☎0779(64)4848。

（北川奈々穂）

人 坂井 小遊三さん、宮治さん登場

人気落語家の三遊亭小遊三さんと桂宮治さんの二人会（福井新聞社共催）が24日、坂井市ハートピア春江であった。軽妙な語りに満席の760人を湧かせた。

宮治さんは「権助魚」を披露。奉公人の権助が、網打ちを口実に愛人に会いに行く主人を守ろうとして、魚屋でかまぼこを買ってしまう様子をユーモアたっぷ

の筒に閉じ込められた。

（西田菜愉）

サムホール美術展 大賞受賞者ら表彰

あわら・金津創作の森

第40回FUKUIサムホール美術展（福井新聞社後



土田哲男さん（右）から賞状を授与される大賞の市川さん＝23日、あわら市金津創作の森美術館